

## 全校朝会【7月】

今日は「努力する人は希望を語り、怠ける人は不満を語る」という言葉を紹介します。この言葉は、小説作家の井上靖さんの言葉として有名です。この言葉の解説をインターネットで見つけたので、そのまま紹介します。

その人が希望を語っていれば「この人は努力する人」なのだと分かります。逆に不満を語っていれば「この人は怠ける人」なのだと分かります。両者の違いは、結果としても明らかになるでしょう。怠ける人より努力する人が結果を出すのは明らかです。両者を分けるものは、どこに目を向けるかであり、怠けようとする自分に打ち勝てるかどうかです。どうも我々は、つつい現状の不満にばかり目を向け、努力を怠るクセがあるようです。本当は、不満があるから怠けるというより、怠けたいから不満を探す、と言う方が適切かもしれません。

そうならないために、我々は意識的に希望に目を向けていく努力が必要なのかも知れません。折に触れ、この言葉を思い出し、今の自分はどちらなのか自分自身に問いたくなります。そして、もちろん希望を語る人でありたいものです。

〔「生き方・働き方を模索する人のWEBマガジン モチラボ」より〕

何かうまくいかないとき、つい不満をもらしたくなる気持ち、誰でもあると思います。わたしにだってそういう時もあります。しかし、

不平や不満を口に出しても、何も解決しません。また、不平や不満を聞いて、気持ちよくなる人はどこにもいません。「ああ、そうなんだ、あなたが悪いんじゃないんだね。」などと同情する人もいません。逆に、「あなたは自分のことは棚に上げて、他人のせいにしてしまう、怠け者なのですね。」と思われてしまうことになります。

希望に満ちた言葉には、自分も周りの人も元気にする力があります。元気をもらった周りの人の応援も得られるので、自ずと結果もついてきます。

逆に、怠ける人は結果もついてこないのも更に不平・不満を漏らすというマイナスのスパイラルに陥ってしまいます。また、教室で話した学年もありますが、不平・不満は「マイナスのストローク」といって周りの人の元気や前向きな気持ちも減らしてしまう、よくない力を持っています。

皆さんの回りにも、何かと不平・不満をこぼす人がいるかも知れません。自分の思いどおりにいかないとき、自分のせいだと思いたくないとき、ぜひこの言葉を思い出してください。